

第1学年英語科学習指導案

日時 平成26年11月7日(金) 5校時

対象 1年6組 男20名、女15名 計35名

指導者 吉川香

1 単元名 PROGRAM 8 Origami

2 単元の目標

第1学年の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

- (1) 助動詞 can(can't)を用いて、まとまりのある内容で表現する。
- (2) 進んで話したり、答えたりする。
- (3) 自分や友達のできることについて説明する。
- (4) 相手のできることについてたずねる。
- (5) 手段について疑問詞 how を用いて質問する。
- (6) 助動詞 can、疑問詞 how を用いた文の構造を理解する。

3 単元の評価規準

観点	B：おおむね満足できる
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワークや発表において、自分から進んで取り組もうとしている。
外国語表現の能力	① 助動詞 can(can't)を用いて、表現できる。 ② 疑問詞 how を用いて、表現できる。
外国語理解の能力	① 助動詞 can(can't)を用いた文を理解できる。 ② 疑問詞 how を用いた文を理解できる。
言語や文化についての知識・理解	① 助動詞 can を用いた文の構造を理解している。 ② 疑問詞 how を用いた文の構造を理解している。

4 単元について

(1) 児童(生徒)について

学習規律が、概ね身につけている学級であり、一斉授業でも主体的に学習に取り組むことができる。しかし、個別指導の必要な生徒や課題もやり切ることのできない生徒も数名見られるが、真面目に学習課題に取り組んでいる。授業では、ペアワークを中心に練習などを行っており、相互の教え合いができるように指導している。本単元でも、ペアワークで学習を進め、自分の力で表現できるようにさせたい。

(2) 教材について

生徒は、小学校の英語活動で英語に慣れ、中学校では、文法事項も具体的に学習しながら理解を

進めている。そして、これまでに be 動詞、一般動詞（三単現の s を含む）、wh 疑問文、代名詞を学習しており、表現活動をする上では、一般動詞をどの程度活用できるかで表現の広がりや深さが変わってくる。

本単元では、助動詞(can)を用いた文の構造は、初出であり、主語の人称・数にかかわらず、つねに、後ろに動詞の原形がくることに着目させたい。また、can には、いろいろな意味があるが、もっとも基本的な「能力」を表す can について学習する。また、疑問詞 how は、既習の「状態をたずねる」意味であったが、本単元では、「手段・方法をたずねる」意味での学習となる。

題材については、大介が英語の時間のスピーチの中で折り紙で折った動物について触れている。マイクとウッド先生が興味を持って質問し、実際ウッド先生は折り紙を折っている。ここでは、折り紙が日本の文化でありながら、世界中で人気があり、ウッド先生がインターネットを通じて世界中のファンと折り紙の情報を交換していることを話している。

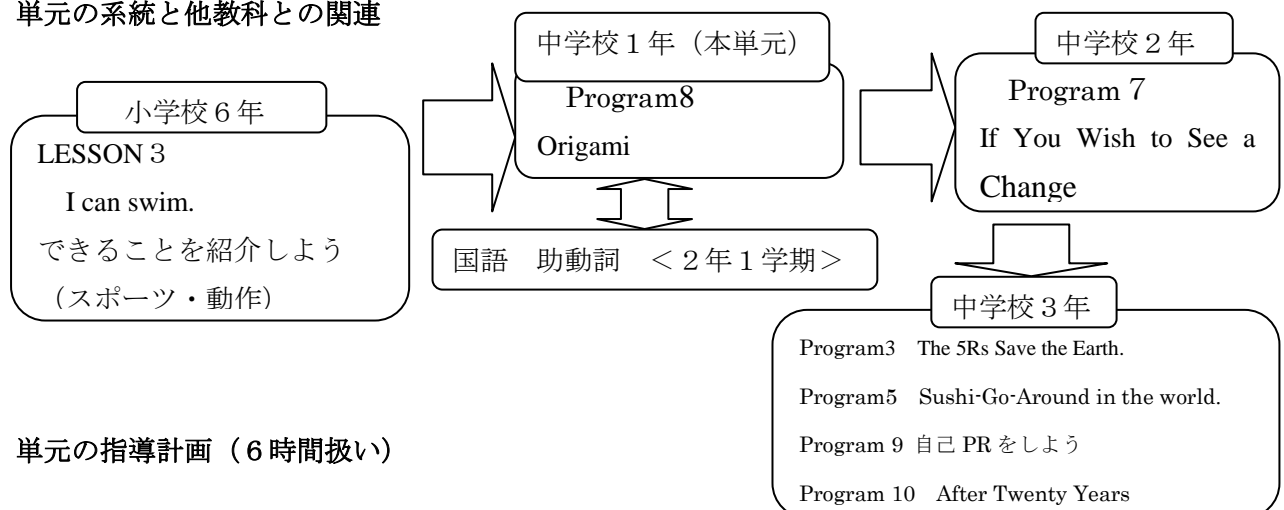
(3) 指導について

「場のつながり」として、日本語で説明や意見などを言うときに意識させて話すようにさせたい。

「教材のつながり」として、本単元では、「できることを説明したり、たずねたりする」ことの学習であるが、小学校6年生の Lesson3 で I can swim. で、すでに、できることを紹介しよう（スポーツ・動作）を学習しており、本単元では、小学校での英語活動で触れたできることに加えて、自分の思いなども表現できるようにしたい。そして、2 学年、3 学年の学習において、自分の考えをまとめ、表現する場合に、その場面にそって助動詞 can を用いて表現できるようにさせたい。また、疑問詞 how を用いた表現は、日常的に中学校における英語学習の中で日常的に使用できるようにしていきたい。

「人のつながり」として、英語はコミュニケーションの手段であるので、つねに、その対象となる人が必ず存在する。したがって、学習内容を理解し、それらを用いてコミュニケーションを図ろうとすることや、図るために活用することがねらいと考える。そのため、授業では、ペアワークや言語活動では相手を意識しての活動を行うことが大切である。また、コミュニケーションの相手を大切にするために、コミュニケーションを成立させるために、「聞くこと」も大切にしたい。その活動の中で、友達の表現のすばらしさや発想に気づかせ、自分のコミュニケーション能力を高めるために基礎的な知識を得て、自分の表現ができるようにしたい。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画（6時間扱い）

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| (1) 助動詞 can の肯定文と否定文 | 1 時間 (本時 1 / 6) |
| (2) 内容理解 | 1 時間 |
| (3) 助動詞 can の Yes-No 疑問文とその応答文 | 1 時間 |
| (4) 内容理解 | 1 時間 |
| (5) 疑問詞 how を用いた疑問文とその応答文 | 1 時間 |
| (6) 内容理解 | 1 時間 |

7 本時について

(1) 目標

- ①進んで表現している。〈コミュニケーションへの意欲・関心・態度〉
- ②助動詞 can を用いた文 (肯定文・否定文) の形・意味・用法を理解する。

〈言語や文化についての知識・理解〉

(2) 「自分の考えをもつ^自」「互いの考えを交流する^交」「お互いの考えのよさに気づく^気」場面

本時の「自分の考えをもつ^自」場面は、言語活動で自分のできることを表現する場面であり、このことは、自分の良さに気づくことにもつながり、自己存在感にもつながる。「互いの考えを交流する^交」場面は、言語活動での対話の場面である。「お互いの考えのよさに気づく^気」は、言語活動での対話の場面であり、相手のできることを理解し、相手の表現のよさに気づき、認め、自分 (表現) に取り入れようとするものである。

(3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点●評価の観点 (方法)
導入 10分	1 英語で挨拶する。 2 復習(reading/writing)をする。 3 学習の見通しを持ち、学習課題づくりをする。 4 学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「can を用いた文。」を使って、表現しよう。</div>		○指導上の留意点●評価の観点 (方法) ○挨拶と動詞・疑問文の練習をペアワークで行わせる。 ○音読と書き取りをすることにより、音と文字を意識させる。 ○can を指摘するなど、学習課題に気づき、見通しを持たせる。 ○can を用いた文で自分のことを表現することを知る。
展開 30分	5 can の用法を理解する。(文構造) 6 can を用いた文をペアワークで練習する。 7 ペアワークでできることについて対話する。 8 自分のできることについて	自 交	○語順に気をつけながら練習させることで、語順を確実に定着させたい。 ○表現の幅が広がるように、多くの動詞に触れさせる。 ●can を用いた文を使って、進んで表現している。(観察)

	既習事項を生かしながら、英文を書く。(目標5文程度) 9 隣の生徒と読み合う。 9 相手のできることを知り、相手を紹介する文を書く。	気	●文構造に気をつけながら can を適切に用いて文を作ることができたか。(作文・机間指導) ○相手のできることや表現の良さに気づくことができたか。(作文・発表)
終 末 5 分	10 基本文を暗唱し、学習のまとめとする。 11 次時の学習内容を知り、英語で挨拶する。		○本時のポイントを確認し、学習のまとめとする。 ○授業の評価をし、次時の内容を知らせる。

(4) 板書計画

Friday, November 7th, Sunny

Goal: can を用いた文を使って表現しよう!

見通し

主語 + can + 動詞の原形 + ~.

I can jump. Honda speaks Japanese.

I can run fast. He can speak English too.

 He is very cool.

play the piano/play tennis/cook takoyaki

swim fast / clean my room / help my mother

交流

Taro can run very fast.

Hana can speak English very well.

気づく

・

・

まとめ